

昭和57年

あけまして おめでとございます



新年のごあいさつ



市議会議長
高松三郎

あけましておめでとございます。
市民の皆様には、昭和五十七年の新春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。
浅学非才な私が、昨年九月市議会におきまして、はからずも議長に推挙されましてからは、三か月余を経過いたしますが、その間、皆様から絶大なるご支援とご協力を頂きましたことに対し、深く感謝申し上げます。
昭和五十七年は、行政の刷新と財政の健全



市長
齋藤善蔵

市民の皆様、明けましておめでとございます。
昨年八月、厳しく、しかも難かしい幾多の問題を抱えている日光市政の流れを変え、次の世代に胸を張って引継ぐことのできる基礎造りをする覚悟のもとに、市民多数の信託を受けました。
市長としての二年目であり、昭和五十七年の年頭にあたり、厳しい社会情勢の中で、心を新たに、日光市の山積する問題を

化をめざす行財政改革の影響から、当市の財政は更に厳しくなることが予測されます。
一方、社会経済の複雑化、多様化に伴ない市政に対する要望がますます高まる中にありまして、議会といたしましては、国および県に対する働きかけを一層強力なものとし、皆様の権利および利益を擁護するために、最善を尽くさねばならないと考えております。
また、山積する緊急課題を早期に解決するため、代弁者としての議会は、本来の行政に対する監視機能を十分に果たしながらも、執行機関と相協調して、財政の許す限り最大限の行政効果をあげるため、一丸となつて努力する覚悟であります。
どうか、本年も旧年に倍するご支援とご協力を賜われますようお願い申し上げます。
私の年頭のごあいさつといたします。

一つ解決して行くための努力を重ねて参りたいと思っております。
本年は、国においては行財政改革を実施に移す年であります。その影響は末端行政体である日光市にも大なり小なり及ぶことを考えない訳には参りません。しかし、職員共々、税外収入の確保の計れる事業の導入に努めたいと思っております。
市民のための市政は、市民との対話の中から生まれることを考え、本年三月から精力的に懇談会を開きたいと存じます。また、日光百年の計を樹立するための計画案を専門家に依頼し、市民の各階各層の判断を仰ぎます。
今こそ、勇気をもって、明日の日光建設に立向わなければなりません。どうぞ、変わらぬご教導を賜わると同時に、ご協力とご支援をお願い申し上げます。

二の間、神社は寛政九年（一七五）関東一円より多額の勸化を得、遠くは武州八王子まで行って募金し、朱塗彫刻の華麗な社に改築し、弘化三年（一八四六）には、神祇道管領より神階を受け、由緒ある社殿とうっそうたる神域を誇ったが、明治九年（一八七六）神仏分離のちの变革にあい、山久保小学校の創設と関連して、社叢の三分の二、（本殿の奥十四本、社殿より参道まで十八本）が伐採され残りの杉も、風雨落雷等で枯損し、今はわずかに六本を残すのみとなった。
近年、上都賀北部一帯は、日光林業地区として斯界にその名を博し、林業資源を豊富に包蔵するに至った。稲荷神社の社叢を見れば、その因つてくるところが理解されるであろう。
山久保稲荷神社は、今市から小来川、鹿沼行きのバスに乗り、木曾で下車すると、その北方に小丘陵があり、杉に覆われているが、その林冠を抜いて老杉のそびえているのが目につく。稲荷神社の社殿はその丘陵の頂上にあつて東面し、社殿を囲んで六本の老杉がある。
（昭和三十五年八月指定）
市教育委員会発行「日光市指定の文化財」より抜粋